

【資 料】

明治黎明期における米・アナポリス 海軍士官学校日本人留学生

中 拂 仁

目 次

- 1 最初の留学生，横井佐平太
- 2 明治中期迄の留学生群像と留学生の履修内容の一端
—松村淳蔵の履修科目を中心として—

1. 最初の留学生，横井佐平太

「1866 年秋の夕暮れ間近，ニューヨークのフルトン通り 103 番地にある海外伝導団事務所へ用向きから帰ると，中国人と覚しき質素な身なりの男性と二人の若者が，私を待ち受けておりました。男は帆船の船長で若者たちは日本人であることが判明しました。若者二人はアメリカの衣服を纏っておりました。二人は当時長崎に滞在されているギドー・F. フルベッキ師からの書簡を携えており，……………中略……………若者たちは，イセ（伊勢）とヌマガワ（沼川）と名乗っておりましたが，実は偽名であることがわかりました⁽¹⁾。」この引用文中の若者二人は，肥後熊本藩の横井小楠（1809～1869）の兄・時明の子供である。イセとは兄の横井佐平太で伊勢佐太郎，ヌマガワは弟の横井大平で沼川三郎と，それぞれ変名を使い 1866 年（慶応 2）4 月米国へ向けて長崎を出帆している。佐平太が 22 歳，大平が 17 歳での船出であった。ニューヨークに着いた二人は，米国改革派教会海外伝導団名誉主事の J. M. フェリス師によってニュー・ブラウンズウィックに連れていかれて当地で懇切な待遇を受けている。

明治黎明期における米・アナポリス海軍士官学校日本人留学生（中拂）

そしてニュー・ブラウンズウィックにあったラットガーズ大学の予科に入学している。二人の渡航目的は、叔父横井小楠の教えを受けて「祖国をヨーロッパ列強の蹂躪から守るために、先ず航海術を修め、次いで更に“大型船”と“大砲”の製造法を学ぶつもりであ⁽²⁾」ったという。小楠は、二甥の門出にあったって次のような詩を詠んで送り出している。

送左・大二姪^{ママ}洋行⁽³⁾

明堯舜孔子之道。（堯舜孔子の道を明らかにし）

盡西洋器械之術。（西洋器械の術を盡くす）

何止富國。（何ぞ富國に止らん）

何止強兵。（何ぞ強兵に止らん）

布大義於四海而已。（大義を四海に布かんのみ）

有逆於心勿尤人。（心に逆ふこと有るも人を尤むること勿れ）

尤人損徳。（人を尤むれば徳を損ず）

有所欲爲勿正心。（爲さんと欲する所有るも心に正にする勿れ）

正心破事。（心に正にすれば事を破る）

君子之道在脩身。（君子の道は身を脩むるに在り）

まさしくこの詩に詠まれているような志を抱いて渡航したことは想像に難くは無い。

日本を出港する時は私費留学であったが、ニュー・ブラウンズウィックに滞在中の二人は、米国改革派教会からの支援を受けている。その後、1868年明治新政府が樹立されてからは官費で賄われている。この間弟の大平は病に罹り（肺結核）1870年に帰国を余儀なくされている。帰国後長崎で療養しつつ熊本英学校（ジェーンズ英学校）の創設に尽力中、1871年に22歳の生涯を閉じている。一方、兄の佐平太は初期の目的を全うすべくワシントン政府に、積極的な働きかけを行うとともに明治新政府の要請とも相俟って、1869年後述の The U.S. Naval Academy への入学を許可されている。

ところで横井小楠⁽⁴⁾は幕末期において、その開明的な思想により、越前福

井藩の松平春嶽に招聘されて持論の民富論的国富論を実践し成功を収めたことで、福井藩の財政再建に大きく寄与し、その名を全国的に広めた。1868年に明治新政府から徴士参与を命じられ、新政府の重要な一角を担う一員として下級武士の中での数少ない一人であった。しかしながら翌年参賀の帰途、凶刃に倒れその意図するものを実現する暇も無く61年の生涯を閉じている。

注

- (1) Willam E.Griffis *The Rutgers Graduates in Japan* (Rutgers College 1916) pp. 32-33 “VIII. How The Japanese Come To New Brunswick” by the Rev. John M.Ferris, D.D.（邦訳）中拂訳「ラットガーズ大学卒業生の滞日活動」（Ⅱ）（国士舘大学政経學會『政経論叢』第95号・平成8年）90～91頁
- (2) *ibid*, p. 33 邦訳91頁
- (3) 山崎正堇偏『横井小楠遺稿・詩文』（日新書院・昭和17年）726頁
- (4) 横井小楠に関しては、以下の主な文献を参照されたい。
 - ・山崎正堇偏『横井小楠遺稿』（日新書院・昭和17年）
 - ・山崎正堇偏『横井小楠傳上・中・下巻』（日新書院・昭和17年）
 - ・圭室諦成『横井小楠』（吉川弘文館・人物叢書新装版・昭和63年）
 - ・松浦玲『横井小楠』（朝日新聞社・朝日評伝選8・昭和51年）
 - ・花立三郎全訳注『横井小楠・国是三論』（講談社・昭和61年）
 - ・熊本市教育委員会編集・発行『横井小楠』（昭和57年）
 - ・三上一夫『横井小楠の新政治社会像—幕末維新変革の軌跡—』（思文閣出版・1996年）
 - ・拙稿「横井小楠の政治思想—為政者観・政治家論の一研究—」（国士舘大学政経學會『政経論叢』第67号・平成元年）
 - ・拙稿「江戸期における「公」観念の推移—荻生徂徠と横井小楠—」（国士舘大学政経學會『政経論叢』第99号・平成9年）
 - ・拙稿「横井小楠の「済民観」」（国士舘大学政経学部附属経済研究所『経済研紀要』第6巻1号・平成6年）
 - ・拙稿「横井小楠の開国論と『海国図志』」（国士舘大学政経学部附属経済研究所『経済研紀要』第8巻1号・平成8年）
 - ・拙稿「横井小楠の幕政批判」（国士舘大学政経学部附属経済研究所『経済研紀要』第9巻1号・平成9年）

2. 明治中期迄の留学生群像と留学生の履修内容の一端

——松村淳蔵の履修科目を中心として——

イセこと横井佐平太は、1869年12月にThe U.S. Naval Academy（アメリカ海軍士官学校）への入学が許可されている。同時に松村淳蔵（1842～1919）も官費留学生として入学している。松村は薩摩鹿児島藩の出身であり、別名を市来勘十郎とも称している。彼は1865年に渡米しニュー・ブラウンズウィックの大学予科での学習の後、1868年ラットガーズ大学に入学し1年間学んでから⁽¹⁾、横井佐平太と共に海軍士官学校に入ったのである。

ところで、二人が日本人として初めて入学したThe U.S. Naval Academy（アメリカ海軍士官学校）は、所在地がメリーランド州アナポリスにあるために、我が国では通常アナポリス海軍士官学校あるいはアナポリス海軍兵学校と呼び習わしている。ここではアナポリス海軍士官学校で統一する。

では、一体アナポリス海軍士官学校とはどのような学校なのか。それは首都ワシントンD.C.から東北東へ約50キロのチェサピーク湾に面した風光明媚な所に位置する。このアナポリスの町は、1649年に初めて移民が定住している。そして1694年にはメリーランド州の州都となり、18世紀の半ば頃には文化・商業の中心として発展している町である。現在もそのままの町並を留め、国の文化財保存建造物などが多く残っており、歴史の浅いアメリカにとって古い歴史を持つ都市の一つである。

ここで、このアナポリス海軍士官学校の来歴を、筆者が入手した『1997～1998年海軍士官学校要覧』に従って略述しておこう。それによると、「1845年10月10日、ジョージ・バンクロフト海軍長官の懸命な努力によって、国会の資金援助をも受けることなくメリーランド州アナポリスのフォートセヴァーンにあった僅か10エーカーばかりの陸軍駐屯地の一角に、1クラス50名だけの海軍兵学校生徒と、7名の教授陣によって海軍兵学校（the Naval School）が創設されたのであった。カリキュラムは数学、航海術、砲術、蒸気機関学、化学、英語学、自然哲学、仏語学などがであった。1850年、海軍兵学校は合衆国海

軍士官学校（The United States Naval Academy）に昇格した。そこでの新カリキュラムは、4年間の士官学校生活を通じての学習と、夏季ごとの航海訓練を海軍兵学校生徒に課した。その体制はより遥かに進展し洗練された今日の海軍士官学校のカリキュラムの基礎となっている。合衆国海軍が年月を追う毎に成長したのと同様に、海軍士官学校も発展したのであった。10エーカーだったキャンパスは338エーカーへと広がった。更に当初50名であった生徒団は、4000人の旅団サイズへと大きくなった。また、教授陣は約600名（軍人、文民合わせて）へと大きくなっている。そして花崗岩の近代的なビル群が、彼のフォートセヴァーンの古い木造建築物に取って代わったのであった。1933年、国会は海軍士官学校が理学士の学士号授与の開始を認可した。後に海軍士官学校は、従来全ての海軍兵学校生徒が受講していた固定的なカリキュラムに、18の専攻分野や多種多様な幅広い選択科目コースを加えた現在のコアカリキュラム（社会人形成に基底的に必要と考えられる教科課程）に変更し、研究・調査の機会を増大させた。それ以来、合衆国海軍士官学校の発展は国家の歴史を反映してきた。アメリカの文化や技術が変化するにつれて、海軍士官学校も変わってきた。ほんの数十年で海軍は帆船と蒸気船の艦隊から、原子力潜水艦、水上艦、超音速航空機を持ったハイテク艦隊へと進歩した。海軍士官学校生徒に対し彼等の将来の経歴において、実践的な海軍将校になるための技術・芸術・科学の最進段階の学問的および専門的訓練をも実施しながら、海軍士官学校も変化してきたのであった。国会が全ての陸海空の各士官学校への女性の入学を許可した1976年、海軍士官学校では初めて海軍士官学校生徒として女性を受け入れたのであった。女性はplebes（最下級生）あるいはfreshmen（新入生）の13～14%を占め、男性クラスメートと同じ学問的・専門的訓練を遂行するのである⁽²⁾。」とある。

ところで、このような歴史を持つアナポリス海軍士官学校に明治早初期から中期にかけて、上記の二人以外にどのような日本人留学生がいたか。筆者が1998年9月に、アナポリス海軍士官学校のニミッツ図書館内にある公文書室で入手した資料に基づいて述べることにしたい。表1と表2（表1は、リッチ

表 1 JAPANESE AT THE U.S. NAVAL ACADEMY, 1869—1906

1. GRADUATES Name	Admitted, Year/Month	Age at Admission, Year/Month	Graduated, Year/Month	Class Standing: Rank/No. of Grads	Highest Rank Attained	Remark
Matsumura Junzo	69.12	27.5	73.5	28 / 29	VADM	Rutgers 1868—69
Katsu Koroku	71.6	16.4	77.6	44 / 45		} Not in naval registers of 1883 and after
Kunitomo Jiro	72.10	17.1	77.6	44 / 45		
Serata Tasuku	77.9	20.11	81.6	14 / 72	RADM	
Uriu Sotokichi	77.9	20.8	81.6	26 / 72	ADM	Commissioned LTJG 1881
Inoue Yonosuke (Ryochi)	77.9	26	81.6	72 / 72	VADM	Commissioned LTJG 1881
Tamura Hiroaki	96.5	17.5	00.6	61 / 61	RADM	Made Midshipman 1900.8
2. DROP = OUTS Name	Admitted, Year/Month	Age at Admission, Year/Month	Withdrew, Year/Month	Highest Rank Attained Remark		
Ise Sataro	69.12		71.10			
Azuma Takahiko	72.5	18	73.7			
眞 ^{マコト} Hachida Keijiro (Yūjiro)	73.10	16.4	76.1	CAPT		
Arima Kantoro	74.6	17.3	76.7			
Nambu Hidemaro	74.6	16.1	75.1			
Yuichi Sadanori	78.9	19.11	81.4	ENG VADM		
Nire Kagekazu	87.5	17.8	91.6	LCDR		
Takasaki Motohiko	91.5	17.9	95.6	LCDR		
Kitagaki Asahi	05.6	19.7	06			
Matsukata Kinjiro	06.6	18.5	06	Cadet Engineer Killed in Russo-Jse. War Killed in Russo-Jse. War Died 1906. 8		

NOTES: VADM means vice admiral, ENG VADM engineer vice admiral, RADM rear admiral, CAPT captain, LCDR lieutenant commander, LTJG lieutenant Junior grade.

表2. 明治2年（1869）～明治36年（1906）アメリカ海軍士官学校日本人留学生リスト

氏名	入学年度 (月)	入学時の 年齢	卒業年度 (月)	クラス成績 席次/卒業生数	帰国後の就 任最高位	備考
1. 卒業生						
松村 淳蔵	明治2年12月	27歳5月	明治6年5月	28/29	帝国海軍中将	明治元年～2年 ラットガーズ大学在籍
勝 小鹿	明治2年6月	16歳4月	明治10年6月	44/45		明治16年以降の海軍への登録
国友 次郎	明治5年10月	17歳1月	明治10年6月	44/45		はされていない
世良田 亮	明治10年9月	20歳11月	明治14年6月	14/72	帝国海軍少将	明治14年帝国海軍中尉任官
瓜生 外吉	明治10年9月	20歳8月	明治14年6月	26/72	帝国海軍大將	明治14年帝国海軍中尉任官
井上 世之助（良智）	明治10年9月	26歳	明治14年6月	72/72	帝国海軍中将	明治14年帝国海軍中尉任官
田村 弘明か？	明治29年5月	17歳5月	明治33年6月	61/61	帝国海軍少将	明治33年8月帝国海軍兵学校生徒
2. 中途退学者						
氏名	入学年度 (月)	入学時の 年齢	中途退学 (年月)		帰国後の就任最高位	備考
伊勢 左太郎	明治2年12月		明治4年10月			
東 孝彦	明治5年5月	18歳	明治6年7月			
町田啓次郎	明治6年10月	16歳4月	明治9年1月		帝国海軍大佐	
有馬 幹太郎	明治7年6月	17歳3月	明治9年7月			
南部 英麿	明治7年6月	16歳1月	明治5年1月			
湯地 定監	明治11年9月	19歳11月	明治14年4月		帝国海軍機関中将	帝国海軍機関士官候補生
仁礼 景一	明治20年5月	17歳8月	明治24年6月		帝国海軍少佐	日露戦争で戦死
高崎 元彦	明治24年5月	17歳9月	明治28年5月		帝国海軍少佐	日露戦争で戦死
北垣 旭か？	明治38年6月	19歳7月	明治39年			
松方 健次郎か？	明治39年6月	18歳5月	明治39年			明治39年8月死亡

注：VADM－海軍中将，ENG VADM－機関中将，RADM－海軍中将，CAPT－海軍大佐，LCDR－海軍少佐，LTJG－海軍中尉をそれぞれ表す。

明治黎明期における米・アナポリス海軍士官学校日本人留学生（中拂）

モンド大学歴史学部の Dave EVANS 教授が 1986 年に作成したもの、アナポリス海軍士官学校ニミッツ図書館公文書室蔵、表 2 はその日本語訳）から分かるように明治 2 年から 36 年迄の間に、アナポリス海軍士官学校の日本人卒業生が 7 名、中途退学者（殆どが WITHDREW 自主退学である）が 10 名の計 17 名に及んでいる。退学者の多くが語学力の不足と、ヌマガワこと横井大平が罹病した病と同じような状況であっただろうと推察できよう。

さて、留学生たちはどのような科目を学んでいたのでしょうか。ここで明治 2 年、同時に入学した横井佐平太と松村淳蔵の二人を中心に、筆者が入手した成績簿に基づいて比較検討してみることにする。

先ず初年度の学習科目は、表 3 に見られるようにフェンシング・数学・英文法・地理学・歴史学・フランス語・製図法・航海実習等である。1869 年 12 月に入学していながら 1871 年の成績簿に漸く Ise Sataro（横井佐平太）の名が出てくるが、1 年余の間の動向は残念ながら不明である。山崎正薫が横井佐平太の海軍士官学校でのことについて「佐平太は初めは航海學を修めていたが、後には政治法律の學を學んだやうだ⁽³⁾。」と推測しているが、表 3 で視るかぎり政治法律学を公式に学んだという根拠は見出せない。

また、松村淳蔵についても表 4・5・7 で判明できるように二学年から卒業年度の成績簿のみ入手し得たが、初年度の学習科目は横井佐平太が学んでいたものと変わらないものと思われる。佐平太は表 6 のように 1871 年 10 月に自主退学しているので、以後は松村淳蔵が進級するにつれてどのような科目を学んだかを、表 4・5・7 に従って見てみよう。

第二学年での科目は、船舶操舵術・砲学・フェンシング・数学・化学・歴史学及び作文・修辞学・フランス語・スペイン語・製図法・航海実習等であり（表 4）、第三学年では船舶操舵術・船舶操舵実習・海戦術・造船学・砲学・歩兵学・フェンシング・天文学・電気学・動力学・静力学・フランス語・製図法・航海実習等である（表 5）。

そして、卒業年度になると船舶操舵術・船舶操舵実習・砲学・フェンシング・蒸気機関学・航海法及び測量学・熱学及び気候学・光学及び音響学・国際

明治黎明期における米・アナポリス海軍士官学校日本人留学生（中拂）

表3 Fourth Class—96 members—Continued.

order of general merit	Name.	State	Date of admission.	Age at date of admission		Order of merit in —								Sea-service in practice ships	
				Years.	Months.	Fencing.	Mathematics.	Grammar	Geography	History.	French.	Drawing.	No. of demerits	Months.	Days.
35	William T. Dutton	Vermont	June 4, 1870	17	11	86	19	33	49	46	48	71	268	3	8
36	Richard H. Townley	Nebraska	June 20, 1870	17	4	21	37	38	42	40	54	45	176	3	8
37	Augustus E. Jardine	At large	Sept. 21, 1870	15	8	58	41	48	23	41	62	65	10	3	8
38	Cameron M. Winslow	do	Sept. 27, 1870	16	1	5	52	46	33	47	52	4	144	3	8
39	Bernard O. Scott	Alabama	June 29, 1870	14	5	34	d66	56	7	57	20	42	74	3	8
40	Clifford J. Boush	Virginia	June 20, 1870	15	10	27	27	51	60	65	26	28	244	3	8
41	John M. Bowyer	Iowa	Sept. 28, 1870	17	3	21	45	37	68	28	56	31	82	3	8
42	Henry P. Moorman	Kentucky	Sept. 20, 1870	16	7	65	16	49	65	43	44	85	230	3	8
43	Matthew G. Reynolds	Missouri	Sept. 21, 1870	15	10	12	24	67	41	72	72	51	60	3	8
44	Harry M. Hodges	Illinois	Sept. 29, 1870	15	3	89	49	45	46	55	39	52	50	3	8
45	William S. McGinnis	do	June 24, 1870	16	5	47	d43	65	22	31	62	84	218	3	8
46	Charles Laird	Ohio	Sept. 28, 1870	16	7	89	36	53	53	50	41	55	220	3	8
47	James W. Blakely	Nevada	June 28, 1869	15	0	5	33	43	81	71	8	82	280	6	8
48	William G. Harrington	At large	June 20, 1870	15	8	25	29	57	52	67	86	56	158	3	8
49	Walter S. Hughes	Iowa	Sept. 24, 1870	17	11	70	51	61	66	34	71	27	78	3	8
50	John C. Nichols	Massachusetts	Sept. 20, 1870	15	7	95	67	34	43	39	59	76	110	3	8
51	Samuel W. Watkins	Wisconsin	Sept. 30, 1870	15	11	70	30	68	82	54	91	57	250	3	8
52	David Peacock	New Jersey	Sept. 28, 1869	15	4	85	28	80	69	79	74	39	296	3	8
53	Charles Hull	Mississippi	Sept. 22, 1870	16	5	87	48	70	54	59	83	72	60	3	8
54	Stephen Decatur	At large	June 6, 1870	15	0	3	57	75	73	64	44	44	212	3	8
55	Isa Sataro	Empire of Japan	Dec. 8, 1869	*	*	82	96	89	86	94	62	7	0	5	0
56	John C. Thomas	Virginia	Sept. 21, 1870	16	8	58	44	66	76	68	62	90	194	3	8
57	Alfred L. Hall	Ohio	Sept. 26, 1870	16	0	34	56	60	78	76	76	77	226	3	8
+	Edward D. Bostick	South Carolina	Sept. 24, 1870	17	1	50	d69	40	19	10	31	53	56	3	8
+	Beriah Brown	Oregon	Sept. 28, 1870	14	0	70	d58	78	84	63	d82	81	100	3	8
+	Fydelio S. Carter	Illinois	Sept. 29, 1870	17	4	34	d79	69	40	25	47	61	84	3	8
+	Clarence A. Corbin	Michigan	Sept. 26, 1870	17	2	76	d60	72	77	73	72	47	284	3	8
+	Robert M. Doyle	Tennessee	Sept. 21, 1870	16	4	91	d63	55	79	66	d77	73	74	3	8
+	Frank F. Fletcher	Iowa	Sept. 22, 1870	14	10	76	d62	76	64	51	d75	14	136	3	8
+	Edgar H. Gaither	Kentucky	Sept. 30, 1870	17	10	94	d46	77	83	61	d94	46	172	3	8
+	Alfred L. Howe	Pennsylvania	Sept. 28, 1870	16	5	58	d86	54	58	62	33	8	74	3	8
+	Henry J. Hunt	At large	June 23, 1870	15	2	42	59	64	47	89	d83	6	404	3	8
+	Ridgely Hunt	Louisiana	Sept. 20, 1870	16	7	50	d65	35	61	49	28	48	272	3	8
+	Wilken C. McDowell	Pennsylvania	June 29, 1870	16	8	88	d73	73	70	81	62	25	238	3	8
+	William V. W. —*	At large	Sept. 20, 1870	16	9	24	d77	85	95	83	15	31	160	3	8
+	Alexander Sharp	District Columbia	June 20, 1870	14	7	27	d88	83	74	74	48	29	218	3	8
+	George Stoney	Alabama	Sept. 20, 1870	17	11	70	d61	82	72	d84	62	48	152	3	8
+	Joseph S. Strader	New York	Sept. 22, 1870	16	11	58	d53	28	62	78	56	54	226	3	8
+	James V. Turner	At large	June 20, 1870	15	9	27	d92	79	80	75	d81	62	46	3	8
+	Henry F. Wells	New York	Sept. 28, 1870	15	10	82	d72	47	56	d82	14	67	78	3	8
+	Edward A. Whipple	At large	Sept. 22, 1870	16	6	47	d90	14	55	3	26	91	265	3	8
+	Hunter C. White	Rhode Island	June 11, 1870	16	5	27	d80	71	51	69	d89	43	248	3	8
+	Thomas C. Whitehead	North Carolina	Sept. 20, 1870	16	10	12	d78	20	21	32	62	94	168	3	8
+	Allen W. Wills	Pennsylvania	Sept. 21, 1870	17	6	69	d70	29	25	36	62	75	0	3	8
+	Frederick C. C. Van Viet(a)	At large	June 21, 1869	15	6									3	8
+	Henry C. Benagh	Alabama	Sept. 20, 1870	17	2	40	d82	d96	75	d95	d88	11	52	3	8
+	Frederick S. Brown	At large	Sept. 28, 1870	17	7	96	d95	d94	92	d96	d96	89	16	3	8
+	James Bryden	Texas	Sept. 30, 1870	15	9	70	d76	d91	90	d93	d83	59	52	3	8
+	William K. Coleman	Ohio	Sept. 21, 1870	16	11	67	d83	d92	87	d86	d95	95	214	3	8
+	Jenness K. Dexter	At large	June 22, 1869	16	10	1	d64	63	35	60	58	2	192	6	8
+	Lewis D. Gibson	Dakota	Sept. 21, 1870	16	9	93	d94	d86	93	80	d78	96	152	3	8
+	Joseph A. Gillett	Massachusetts	Sept. 20, 1870	15	5	42	d93	d95	91	d90	d90	60	194	3	8
+	William H. Hallowell	Pennsylvania	Oct. 8, 1870	17	8	70	d81	d87	94	77	d79	78	90	3	8
+	Edwin F. Hard	New York	Sept. 29, 1870	17	4	42	35	42	89	48	34	92	d364	3	8
+	Frederick L. Hartman	do	Sept. 16, 1870	17	11	16	d87	58	57	58	61	35	d318	3	8
+	Robert P. Kinney	Virginia	Sept. 26, 1870	16	0	42	d90	d93	88	d91	62	93	108	3	8
+	Guilford M. McDaid	Illinois	Sept. 29, 1870	17	5	76	d84	88	67	d87	d93	38	246	3	8
+	George K. McGunnegle	At large	Sept. 21, 1870	16	2	27	d88	84	63	d85	d80	83	178	3	8
+	Samuel M. Peacock	Kentucky	Oct. 18, 1870	17	0	50	d75	81	96	d88	d86	70	86	3	8
+	Louis T. Peale	North Carolina	Oct. 6, 1870	16	8	76	d85	50	28	13	16	16	268	3	8
+	Edmund G. Ray	Pennsylvania	Sept. 20, 1870	16	9	58	49	74	48	29	34	22	d744	3	8
+	Hermann J. Rodman	Missouri	June 21, 1869	15	9	2	d74	59	10	52	34	3	230	6	8
+	George J. Wanless	Washington Terr'y	June 28, 1870	15	2	25	d68	d90	85	d92	d91	62	238	3	8

(a) Sick (d) Deficient. * 原資料印刷不鮮明のため判読不能

SUMMARY Academic year 1870 and '71 concluded June 6, 1871

First, or graduating class: 49 members. Second class: 28 members. Third class: 45 members. Fourth class: 97 members. Total: 219

明治黎明期における米・アナポリス海軍士官学校日本人留学生（中拂）

表4 Third Class.—45 members

Order of general merit.	Name.	State.	Date of admission	Age at date of admission		Order of merit in —												Sea-service in practice ships	
				Years.	Months.	Seamanship	Gunnery	Fencing.	Mathematics.	Chemistry.	History and composition	Rhetoric.	French.	Spanish.	Drawing.	Number of demerits	Months.	Days.	
*1	William H. Schuetze	Missouri	June 21, 1869	15	11	4	2	13	7	4	1	1	3	4	11	16	5	0	
*2	Charles W. Doering	Maine	June 21, 1869	16	10	2	1	11	2	6	4	5	5	5	13	62	5	0	
*3	Gilbert Fowler	Massachusetts	June 23, 1869	15	1	3	4	22	3	2	5	8	2	1	5	120	5	0	
*4	Thomas B. Howard	At large	June 24, 1869	14	10	9	3	38	1	1	5	13	13	6	29	0	5	0	
*5	Samuel W. B. Diehl	Pennsylvania	Sept. 20, 1869	18	0	34	20	7	5	7	11	4	6	2	7	132	5	0	
6	Albert A. Michelson	At large	June 28, 1869	16	6	8	10	2	4	3	34	15	6	15	4	210	5	0	
7	Walter C. Cowles	Connecticut	Sept. 21, 1869	16	2	9	14	29	6	5	2	2	10	9	32	174	4	10	
8	Eugene Raines	New York	June 23, 1869	17	2	18	9	5	10	9	12	14	16	17	9	178	5	0	
9	John W. Turnbull	At large	Oct. 5, 1869	17	4	21	35	17	9	14	9	6	1	3	21	36	5	0	
10	Charles J. Badger	do	June 22, 1869	15	10	1	6	23	25	8	7	7	8	18	8	186	5	0	
11	John M. Robinson	do	June 23, 1869	17	7	30	17	4	16	32	23	16	9	10	1	154	5	0	
12	Henry Morrell	New York	June 29, 1869	15	10	14	21	2	14	39	15	34	24	19	3	120	5	0	
13	Austin M. Knight	Florida	June 30, 1869	14	6	7	16	31	13	29	3	3	24	25	40	247	5	0	
14	James P. Underwood	Michigan	June 28, 1869	17	7	6	30	18	15	31	34	24	28	30	16	22	5	0	
15	Lucian Young	Kentucky	June 21, 1869	17	2	13	26	16	17	11	40	25	39	26	14	80	5	0	
16	Zun Zow Matzmulla	Empire of Japan	Dec. 8, 1869	—	—	41	33	7	8	11	26	26	15	Ex.	26	8	5	0	
17	Charles F. Putnam	Illinois	June 22, 1869	14	6	27	25	27	12	16	13	12	11	12	36	222	5	0	
18	Mason A. Shufeldt	Connecticut	June 23, 1869	16	7	29	5	35	27	36	10	10	31	21	2	218	5	0	
19	William F. Halsey	Louisiana	Sept. 21, 1869	16	5	19	7	31	18	21	13	17	35	31	44	130	5	0	
20	Edmund B. Underwood	At large	June 24, 1869	16	3	36	27	43	19	16	17	9	22	13	42	42	5	0	
21	Samuel C. Lemly	North Carolina	June 26, 1869	16	3	16	12	14	24	30	16	18	20	20	37	118	5	0	
22	George S. Arnold	South Carolina	June 29, 1869	17	9	20	14	19	23	27	26	19	26	28	15	220	5	0	
23	John W. Bean	North Carolina	June 23, 1869	16	0	11	8	11	31	19	21	21	23	22	19	248	5	0	
24	William Winder	New Hampshire	Sept. 16, 1869	18	0	27	33	27	26	10	21	11	11	27	23	234	5	0	
25	Reginald F. Nicholson	North Carolina	Sept. 30, 1869	16	9	25	28	23	11	24	31	39	29	29	30	156	5	0	
26	Augustus L. Case	At large	June 23, 1869	15	5	23	40	44	21	25	18	20	4	7	25	230	5	0	
27	Thomas E. Muse	Maryland	Sept. 30, 1869	17	0	12	41	1	22	32	25	35	21	23	38	34	5	0	
28	Edward Vail	Indiana	Sept. 21, 1869	15	0	32	24	25	30	16	32	23	19	16	16	162	5	0	
29	Frank A. Fenn	Idaho Territory	June 22, 1869	15	9	22	29	5	29	11	18	30	16	11	27	242	5	0	
30	Alfred Reynolds	Indiana	Sept. 21, 1869	16	0	33	13	9	34	22	42	29	13	8	18	142	5	0	
31	Frank A. Wilner	New York	June 23, 1869	17	10	17	17	25	28	23	39	33	33	35	20	132	5	0	
32	Charles B. T. Moore	Illinois	Sept. 27, 1869	16	1	14	22	31	35	14	29	38	32	24	41	246	5	0	
33	Ten Eyck De Witt Veeder	New York	Sept. 24, 1868	14	0	31	23	19	37	37	20	27	36	14	31	244	5	21	

法・スペイン語・航海実習等（表7）の科目を学んでいることがわかる。

成績簿を視るかぎりでは、成績そのものは芳しいものではないが、その置かれた歴史的・社会的背景を考えるならばよくぞその初志を貫徹したといえるのではなからうか。松村は、帰国後長く海軍兵学校の職にあり、近代海軍創設期の多数の将校育成に尽力したといわれている。

明治黎明期における米・アナポリス海軍士官学校日本人留学生（中拂）

表5 *Relative standing of the Second Class in the several branches of study.—29 members*

Order of general merit.	Name	State.	Date of admission.	Age at date of admission		Order of merit in —																Sea-service in practice ships	
				Years.	Months.	Seamanship.	Practical exercises in seamanship.	Naval tactics.	Ship building.	Gunnery.	Infantry tactics.	Fencing.	Astronomy.	Electricity.	Dynamics.	Statics.	French.	Drawing.	Number of demerits.	Months.	Days.		
*1	Schutze, W. H	Missouri	June 21, 1869	15	11	3	4	2	1	1	1	2	1	5	5	2	2	4	60	8	18		
*2	Deering, C W	Maine	June 21, 1869	16	10	2	2	1	3	3	2	9	3	4	6	4	6	3	70	8	18		
*3	Fowler, G	Massachusetts	June 23, 1869	15	1	8	3	3	4	2	3	9	2	2	3	5	1	5	154	8	18		
*4	Howard, T. B	At large	June 24, 1869	14	10	5	6	8	6	5	4	19	3	3	1	1	11	15	0	8	18		
*5	Knight, A. M	Florida	June 30, 1869	14	6	10	10	5	7	4	6	14	5	1	4	7	13	19	154	8	18		
6	Michelson, A. A	At large	June 28, 1869	16	6	26	20	4	17	9	10	3	8	8	2	3	4	1	192	8	18		
7	Cowles, W C	Connecticut	Sept. 21, 1869	16	2	11	11	7	16	7	9	14	7	9	10	8	9	11	142	7	28		
8	Badger, C J	At large	June 22, 1869	15	10	1	1	10	2	6	8	20	16	6	16	13	12	16	189	8	18		
9	Young, L	Kentucky	June 21, 1869	17	2	6	5	6	9	10	23	3	10	13	11	9	25	7	48	8	18		
10	Diehl, S W B	Pennsylvania	Sept. 20, 1869	18	0	27	19	24	14	13	14	18	6	7	7	6	5	6	22	8	18		
11	Case, A L	At large	June 23, 1869	15	5	12	7	14	5	19	27	24	20	12	22	11	3	17	140	8	18		
12	Underwood, J. P	Michigan	June 28, 1869	17	7	14	11	15	13	13	15	1	17	28	8	12	23	14	12	8	18		
13	Putnam, C F	Illinois	June 22, 1869	14	6	25	22	21	8	13	21	7	13	14	9	21	6	12	188	8	18		
14	Underwood, E. B	At large	June 24, 1869	16	3	24	24	16	11	22	11	27	11	15	13	16	10	24	142	8	18		
15	Morrell, H	New York	June 29, 1869	15	10	15	11	11	15	24	22	9	23	23	20	10	20	8	148	8	18		
16	Wilner, F A	New York	June 23, 1869	17	10	7	14	20	23	12	17	21	19	17	18	18	27	20	120	8	18		
17	Bean, J. W	North Carolina	June 23, 1869	16	0	4	8	18	11	13	24	6	22	24	24	22	19	13	212	8	18		
18	Nicholson, R. F	North Carolina	Sept. 30, 1869	16	9	17	8	23	18	25	26	22	11	10	14	17	24	23	146	8	18		
19	Winder, W	New Hampshire	Sept. 16, 1869	18	0	28	28	28	28	11	20	26	18	10	15	15	8	21	188	8	18		
20	Sehufeldt, M. A	Connecticut	June 23, 1869	16	7	23	22	26	10	8	13	28	15	17	19	19	26	10	186	8	18		
21	Robinson, J M	At large	June 23, 1869	17	7	20	20	9	26	25	7	8	25	19	21	25	15	1	186	8	18		
22	Matzoulla, Z	Empire of Japan	Dec. 8, 1869	18	1	18	14	12	27	21	28	12	14	24	12	14	28	22	56	8	18		
23	Lemly, S C	North Carolina	June 26, 1869	16	3	21	16	17	21	18	12	17	9	16	26	27	17	26	136	8	8		
24	Muse, T. E	Maryland	Sept. 30, 1869	17	0	9	25	13	25	28	25	5	27	27	25	26	16	25	118	8	8		
25	Veeder, T E DeW	New York	Sept. 24, 1868	14	0	16	27	27	24	20	19	24	21	26	17	20	21	18	222	9	9		
26	Reynolds, A. I	Indiana	Sept. 21, 1869	16	0	22	18	18	19	27	18	12	26	20	23	d28	14	9	452	8	18		
27	Halsey, W. E I	Louisiana	Sept. 21, 1869	16	5	13	16	22	20	17	5	16	24	22	d28	24	22	27	188	8	18		
28	Moore, C. B. T. I	Illinois	Sept. 27, 1869	16	1	19	26	25	22	23	16	23	28	20	d27	23	18	d28	166	8	18		
a	Farnsworth, J	Illinois	Sept. 25, 1869	14	0	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	
b	Tyler, F	Michigan	June 20, 1868	16	1	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	

(a) Absent sick, not examined. (b) Transferred from next higher class. (d) Deficient.

表 6

WITHDRAWN.	
Japanese Student Ise Sataro	Oct. 24, 1871
Cadet-Midshipman Frank C. Chapman	June 19, 1872
DISMISSALS, ETC.	
Cadet-Midshipman Frank A. Fenn, dropped	Oct. 14, 1871
Cadet-Midshipman Clifford J. Boush, dropped	Oct. 14, 1871
Cadet-Midshipman Charles M. Canon, dropped	Oct. 14, 1871
Cadet-Midshipman Corydon F. Craig, dropped	Oct. 14, 1871
Cadet-Midshipman Henry P. Moorman, dropped	Oct. 14, 1871
Cadet-Midshipman James W. Blakely, dropped	Nov. 16, 1871
Cadet-Midshipman William T. Dutton, dropped	Nov. 16, 1871
Cadet-Midshipman William G. Harrington, dropped	Nov. 16, 1871
Cadet-Midshipman William S. McGinnis, dropped	Nov. 16, 1871
Cadet-Midshipman John C. Nichols, dropped	Nov. 16, 1871
Cadet-Midshipman John C. Thomas, dropped	Nov. 16, 1871
Cadet-Midshipman Thomas C. Whitehead, dropped	Feb. 21, 1872
APPOINTMENT REVOKED.	
Cadet-Midshipman William L. Chipman, dropped	July. 8, 1871

表7 CADET-MIDSHIPMEN ON PROBATION AT THE UNITED STATES NAVAL ACADEMY

Relative standing of the Graduating Class in the several branches of study.—29 members

Order of general merit.	Name	State	Date of admission	Age at date of admis- sion.		Order of merit in —										Demerits for the year.	Sea-ser- vice	
				Years.		Seamanship.	Practical exer- cises in seamanship	Gunnery	Fencing.	Steam-engineery	Navigation and surveying.	Heat and climatol- ogy	Optics and acoustics	International law	Spanish.		Months.	Days.
*1	William A. Schuetze	Missouri	June 21, 1869	15	11	1	1	1	2	2	4	4	3	1	1	37	13	8
*2	Charles W. Deering	Maine	June 21, 1869	16	10	6	1	3	14	5	3	1	2	4	1	52	13	8
*3	Gilbert Fowler	Massachusetts	June 23, 1869	15	1	4	12	2	7	8	6	3	4	3	3	103	13	8
*4	Thomas B. Howard	At large	June 24, 1869	14	10	16	17	7	18	1	1	5	5	11	8	0	13	8
*5	Walter C. Cowles	Connecticut	Sept. 21, 1869	16	2	9	9	5	29	3	2	7	6	2	4	106	10	26
6	Austin M. Knight	Florida	June 30, 1869	14	6	3	15	7	28	12	7	6	7	9	22	140	13	8
7	Samuel W. B. Diehl	Pennsylvania	Sept. 20, 1869	18	0	13	16	11	20	11	12	9	8	8	7	28	10	26
8	Charles J. Badger	At large	June 22, 1869	15	10	2	3	4	27	9	21	13	9	12	18	121	13	8
9	A. A. Michelson	do	June 28, 1869	16	6	25	25	17	4	4	5	2	1	21	5	129	13	8
10	Lucian Young	Kentucky	June 21, 1869	17	2	10	7	10	1	10	11	10	16	22	20	0	13	8
11	R. F. Nicholson	North Carolina	Sept. 30, 1869	16	9	8	6	12	13	16	9	16	11	7	28	134	13	8
12	James P. Underwood	Michigan	June 28, 1869	17	7	17	11	14	7	23	23	18	14	27	13	0	13	8
13	Frank A. Wilner	New York	June 23, 1869	17	10	11	8	16	15	13	8	17	20	15	21	71	13	8
14	Frederick Tyler	Michigan	June 20, 1868	16	1	15	24	6	3	7	18	8	10	5	10	138	13	5
15	Henry Morrell	New York	June 29, 1869	15	10	18	17	27	11	17	13	22	15	28	9	81	13	8
16	Charles F. Putnam	Illinois	June 22, 1869	14	6	19	19	19	17	24	19	20	13	20	10	137	13	8
17	E. B. Underwood	At large	June 24, 1869	16	3	20	20	13	24	26	17	14	22	5	17	105	13	8
18	Augustus L. Case	do	June 23, 1869	15	5	28	21	19	20	6	22	24	17	23	14	115	13	8
19	William F. Halsey	Louisiana	Sept. 21, 1869	16	5	7	5	15	19	21	14	21	27	13	24	129	10	26
20	Mason A. Shufeldt	Connecticut	June 23, 1869	16	7	24	25	9	12	15	27	12	12	10	26	136	13	8
21	Samuel C. Lemly	North Carolina	June 26, 1869	16	3	21	4	25	24	25	15	11	24	17	19	116	13	8
22	William Winder	New Hampshire	Sept. 16, 1869	18	0	26	29	18	26	14	20	15	19	16	16	138	10	26
23	Thomas E. Muse	Maryland	Sept. 30, 1869	17	0	12	13	26	7	20	25	25	28	19	24	90	10	26
24	J. M. Robinson	At large	June 23, 1869	17	7	22	23	28	10	27	28	29	26	26	12	93	13	8
25	John W. Bean	North Carolina	June 23, 1869	16	0	27	21	21	16	25	24	28	23	25	27	86	13	8
26	Alfred Reynolds	Indiana	Sept. 21, 1869	16	0	14	14	21	5	22	26	27	20	24	6	65	10	26
27	C. B. T. Moore	Illinois	Sept. 27, 1869	16	1	5	9	23	23	18	16	25	29	18	15	103	13	8
28	Z. Matzmulla	Empire of Japan	Dec. 8, 1869	18	1	29	27	29	6	19	29	19	17	Ex.	Ex.	0	7	8
29	T. E. De W. Veeder	New York	Sept. 24, 1869	14	0	23	28	24	22	29	10	23	25	14	22	137	10	9

（この小論は、平成10年度国士舘大学政経学会の研究費助成を受けての報告である。）

注

- (1) William E.Griffis. *ibid.* p. 23 邦訳 82 頁
- (2) *United States Naval Academy -1997 ~ 98 Catalog-* p.p.7-8 Published by the U.S.Naval Academy Public Affairs Office.
- (3) 山崎正董偏『横井小楠傳 下巻』（日新書院・昭和 17 年）76 頁
- 表 3 *Annual Register of The United States Naval Academy at Annapolis, MD., for the Academic Year 1871-'72* p. 17 Washington: Government Printing Office. 1872.
- 表 4 *Ibid*, p. 13
- 表 5 *Annual Register of The United States Naval Academy at Annapolis, MD., for the Academic Year 1872-'73* p. 12 Washington: Government Printing Office. 1873.
- 表 6 *Ibid*, p. 48
- 表 7 *Annual Register of The United States Naval Academy at Annapolis, MD., October 1, 1873* p. 9 Washington: Government Printing Office. 1873.